

第4学年 国語科学習指導案

児童 4年2組 35名
指導者 谷田 覚

- 1 単元名 説明のしかたについて考えよう～オリジナル説明文を作ろう～
教材名 「アップとルーズで伝える」 中谷 日出
補助教材「くらしの中の和と洋」（東京書籍・下）

2 単元について

(1) 児童の実態

これまでに児童は、3年生で形式段落の要点のまとめ方を学び、問題提起文と答えの文に気を付けながら要点をとらえる学習をしてきた。4年上『『かむ』ことの力』では、段落相互の関係を考えながら読む学習をしてきている。児童の多くは、文章の「初め」に問題提起、「中」に詳しい説明、「終わり」にまとめの文が書かれているという説明的文章の構成を理解している。また、「ヤドカリとイソギンチャク」（東京書籍・上）では、事実と意見の関係を手掛かりに筆者の構成を考える学習をしてきている。

これらの学習を通して、段落ごとに大まかな内容をとらえることや、説明的文章は段落同士の内容がかかわり合っていることを理解できるようになってきている。しかし、説明文において、筆者が伝えたいことを説明する際に、事例を基にどのような工夫を用いているかを考えている児童はあまり多くない。

児童の説明文の内容に対する興味・関心は高く、初発の感想や初めて知ったことをたくさん書こうとする。また、内容の読み取りに対する意欲も高い。そこで、事例の工夫に着目させ、説明のしかたのよさに気付かせていきたい。

(2) 単元のあらまし

本単元では、中心教材「アップとルーズで伝える」で対比的な段落関係をつかんだ後、補助教材「くらしの中の和と洋」で対比的説明文を自分で考えて書き、さらに友達や自分の説明文を評価しながら読むことで、分かりやすい説明のしかたを理解することをねらいとしている。

「アップとルーズで伝える」は、形式段落と対応した写真を視覚的な資料として示し、「アップ」と「ルーズ」を対比させながら読み進めることができる。そして、アップとルーズで「伝えられること」と「伝えられないこと」を整理することで、一方を読むと、もう一方の内容も知ることができ、全体の内容が把握しやすくなるという対比的説明のよさを学習することができる。また、文章構成が分かりやすく、既習事項を使いながら学習することができる教材である。

「くらしの中の和と洋」は、和室と洋室について、「床の仕上げ方と置かれている家具」、「使い方」、「すごし方の違い」といった3つの項目で対比的説明がされているため、それぞれの違いやよさを分かりやすく説明している文章である。対比する述べ方のよさと、「問い」と「答え」の段落のつながり方を読み取ることができる教材である。

「アップとルーズで伝える」で対比的な説明のしかたを学習した後、「和」の部分を

抜いた「くらしの中の和と洋」の本文を見童に渡し、対比的説明のしかたという視点から不足した部分を補っていく。これらの活動を通してねらいにせまっていきたい。

(3) 指導に当たって

このような見童の実態や単元のあらましを踏まえ、本単元で見童に身に付けさせたい力を次のように考えた。

思考力	文章構成を把握し、各段落が文章全体で果たす役割と段落相互の関係をとらえ、対比的な説明のしかたのよさに気付くことができる力
判断力	オリジナル説明文を考える際、必要な言葉を選ぶことができる力
表現力	対比関係に気を付けて文章を構成し、オリジナル説明文を書くことができる力

第1次では、2つの説明文を用いて説明のしかたについて学ぶことを通して、オリジナル説明文を作るという単元の見通しをもたせる。

第2次では、「アップとルーズで伝える」の内容を、対比の関係に着目して読み取らせる。その際、項目ごとに整理して読み取ることで、事例が対比されていることに着目させる。そして、対比・まとめなどの段落相互の関係をを用いた説明の仕方について知り、オリジナル説明文作りに活かすことを意識付ける。

第3次では、「くらしの中の和と洋」の「洋」の部分の内容を読み取り、オリジナル説明文作りをする。対比的な関係にある「和」の部分を考えて書くことによって、対比の関係をを用いた説明のしかたのよさについて考えさせる。そして、筆者の述べたいことと事例との関係をとらえさせる。

3 単元の見通し

関心・意欲・態度

- ・ 説明的文章を進んで読み、対比関係や段落相互の関係など、筆者の述べ方の工夫をつかみ、意識して文章にしようとする。

読むこと

- ・ 対比・まとめなどの段落相互の関係を気を付け、どのような事例を用いてまとめているかを考えながら読む。 (C読(1)イ)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・ 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解する。 ((1)イ(ク))

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
説明的文章を進んで読み、段落相互の関係や述べ方の工夫をつかみ、意識して文章にしようとしている。	対比・まとめなどの段落相互の関係を気を付け、どのような事例を用いてまとめているかを読み取っている。	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解している。

5 単元の指導計画（指導時数9時間）

時数	学習内容	活用する知識・技能	活用を図る言語活動	評価規準（評価方法）
第一次 1	○ 単元の見通しをもち、学習計画を立てる。 ・「アップとルーズで伝える」を読んで、オリジナル説明文を作ることを知る。 ・「対比」という言葉を知る。	・単元名 ・リード文 ・初め/中/終わり ・対比	・教材文を読み、何について書かれた文章か確認し、見通しをもつ。	(関)単元のねらいを知り、学習に意欲をもっている。 (発言・観察)
第二次 2	○ 『アップとルーズで伝える』を読み、文章の大体をつかみ、感想をもつ。 ・『アップとルーズで伝える』の①～③段落の内容を読み取る。 ・①②段落と③段落の関係をとらえる。	・段落相互の関係 ・初め/中/終わり ・形式段落 ・対比	・指示内容から段落相互の関係をつかみ、対比関係であること知る。	(読)写真と文章の関係を理解し、「アップ」と「ルーズ」の意味を理解している。 (ノート・発言)
3	○ ④～⑥段落の内容を読み取る。 ・アップとルーズそれぞれの長所と短所を読み取る。 ・④⑤段落と⑥段落の関係をとらえる。	・段落相互の関係 ・対比	・「伝えられること」「伝えられないこと」に着目して、アップとルーズそれぞれの長所と短所を読み取る。	(読)アップとルーズそれぞれの長所・短所が述べられていることを読み取っている。 (ノート・発言)
4	○ ⑦⑧段落を読み、筆者の考えや意見をとらえる。 ・アップとルーズは相手や目的に応じて使い分けられていることを読み取る。	・段落相互の関係 ・筆者の伝えたいこと	・アップとルーズの使い分けについて考え、筆者の考えや意見をノートにまとめる。	(読)アップとルーズが目的に応じて使い分けられていることを読み取っている。 (ノート・発言)
5	○ 各段落に小見出しを付けて、段落構成を確認する。	・段落構成図 ・初め/中/終わり ・対比 ・段落相互の関係	・小見出しを書き、各段落が文章全体の中で果たしている役割を考える。	(読)段落相互の関係を理解し、文章全体の構成をつかんでいる。(ノート)
第三次 6	○ 「くらしの中の和と洋」(不十分)の内容を読み取り、洋室の良さを整理する。 ・対比する項目をおさえて、洋室の特徴を整理する。	・初め/中/終わり ・対比 ・事例	・対比する視点をおさえて、洋室の特徴とよさを読み取っている。	(読)洋室の特徴とよさを読み取っている。 (ノート・発言)
7	○ 対比関係や段落相互の関係をとり入れながら、説明文を書く。 ・「くらしの中の和と洋」の「和」の部分をも自分なりに書く。 ・文章を読み返し、手直しする。	・対比 ・事例	・対比的な説明のしかたに気を付けて説明文を書く。	(読)対比的な説明文の書き方を考えている。 (シート・観察)

8	○ オリジナル説明文を紹介し合う（1）。 ・説明文を読み合い、対比関係を確認する。 ・説明文を自己評価したり、相互評価したりする。 ・修正のしかたを確認する。	・対比 ・事例	・どのような項目・視点で対比した事例を書いているか交流し合う。	(読)説明文を読み合い、対比関係について考えている。 (シート・発言)
9 (本時)	○ オリジナル説明文を紹介し合う（2）。 ・説明文を読み合い、対比させた表現を用いた筆者の意図を考える。	・対比 ・事例 ・話題提示文	・対比・まとめの関係をういた筆者の意図について交流し合う。	(読)説明文を読み合い、対比された事例を根拠に、筆者の述べたいことを考えている。 (シート・発言)

6 本時の指導

(1) 目標

オリジナル説明文を読み合い、対比された事例から筆者の述べたいことを考えることができる。

(2) 活用を図る言語活動について

中心教材「アップとルーズで伝える」で読み取った対比による説明のしかたの知識・技能を活用し、「くらしの中の和と洋」のオリジナル説明文を読み合い、対比させた表現を用いた筆者の意図について交流し合う言語活動を行う。その際、「洋」の部分に対してどのような事例を使って対比的に説明しているかを考えさせながら、交流し合う。そして、交流し合うことで筆者が対比関係を用いて伝えたかった思いや考えについて確認し、対比的説明のよさについて考えさせることで思考力・判断力を高めていきたい。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	教師の支援（評価◎）
つかむ 3分	1 前時までの学習内容を想起する。	・ 「アップとルーズで伝える」で対比の関係を知り、対比関係を考えながら作ったオリジナル説明文の前半を紹介したことを想起させる。
	2 本時の学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 筆者が述べたかったことは何か考えよう。 </div>	

<p>見 通 す</p> <p>3 分</p>	<p>3 学習の見直しをもつ。</p> <p>(1) 読みの視点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時で、対比する項目として「作り方」と「すごし方」の違いを確認した。 ゆかの仕上げ方を視点に見ると洋室は板をはったり、カーペットをしいたりしている。 洋室について、しせいやすわり方を視点にして書かれているので、和室も同じようにしせいやすわり方について書かなければいけない。 <p>(2) 学習の流れを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「アップとルーズで伝える」の学習を想起させ、読みの視点を振り返る。 前時読み合った対比する視点と説明文を想起させ、本時の対比する視点が何になりそうかを予想させる。 対比する項目となる「部屋の使い方」に着目してオリジナル説明文を読み、事例の書き方や対比表現を用いて説明した筆者の意図について考えることをおさえさせる。
<p>深 め る</p> <p>32 分</p>	<p>4 学習課題の解決を図る</p> <p>(1) オリジナル説明文を読み合う。</p> <p>(2) 友達の説明文のよいところを全体で交流し合い、どのような視点で事例を書いたのか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対比する視点は「部屋の使い方」 洋室は置いてある家具で使い方が分かることを説明しているので、家具に着目して和室について書かれていないといけない。 <p>(3) 対比表現を使った筆者の述べたいことについて交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対比させることで、和室の良さや洋室の良さ、どちらも伝えなかった。 日本の家では、和室と洋室どちらも取り入れていることを述べたかったと思う。 	<p>【知識・技能の活用を図る言語活動】</p> <p>○ 対比・まとめの関係や筆者の意図について交流し合う。</p> <p>【活用する知識・技能】</p> <p>対比 事例</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童のオリジナル説明文は、児童名を伏せて事前に印刷して配布しておく。 本時で使用するオリジナル説明文を選んでおき、それを中心に読み合う。 家具を視点にすることをおさえる。 イメージできない児童のために、和室と洋室の写真を提示して、部屋の使い方の違いに気付かせる。 筆者は対比表現を用いて何を述べたかったのか考えさせる。 話題提示文に立ち返り、筆者の述べたいことを考える手がかりにする。 シートの修正欄に自分の説明文が妥当であるかどうかを書き込む。妥当でない場合は修正する。

<p>深める 32分</p>	<p>(4) 交流したことを活かし、オリジナル説明文を修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 和室の「部屋の使い方」について、おいてある家具に着目して書いていなかった。 どのように生かされているかを意識して、「両方の良さを取り入れて生活している」とまとめられた。 <p>(5) 「くらしの中の和と洋」の原文を示す。</p>	<p>◎ 説明文を読み合い、対比された事例を根拠に、筆者の述べたいことを考えることができる。(シート・発言)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【目指す子どもの姿】</p> <p>対比・まとめなどの段落相互の関係を意識して、分かりやすい説明のしかたや書き手の述べ方の工夫について考えることができる。</p> <p>(思考力・判断力)</p> </div>
<p>まとめる 5分</p>	<p>5 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>筆者は、和室と洋室どちらにも良さがあり、わたしたちはその両方の良さを取り入れてくらししていることを伝えたかった。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が伝えたかったことを、交流したことや「くらしの中の和と洋」の原文を基にまとめる。
<p>振り返り 2分</p>	<p>6 本時の学習を振り返る。 7 単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これから説明をする時には、対比を用いるとどちらのことも分かりやすく説明できることを押さえる。

(4) 具体の評価規準

観点	A十分満足	Bおおむね満足	Bに至らせるための手立て
読むこと	<p>話題提示文や対比して書いた事例を根拠に筆者の述べたいことを考えることができる。</p>	<p>対比して書いた事例を根拠に筆者の述べたいことを考えることができる。</p>	<p>どのような事例が書かれていたかを手掛かりにさせる。</p>

(5) 板書計画

